



2024年1月25日

国際協力機構（JICA）ベトナム事務所

## JICA・川崎フロンターレ連携事業

### 「川崎フロンターレ算数ドリル」贈呈式および実践算数教室の実施

JICA は、J リーグ（公益社団法人日本プロサッカーリーグ）との協働事業として、SDGs および社会課題に挑むサッカースクール事業の海外展開の実現可能性を検討することを目的とした調査<sup>1</sup>を2022年から実施しています。ベトナムでは、調査を通じて、サッカースクール事業および社会貢献活動を地元の川崎市で積極的に展開している川崎フロンターレと連携し、日本での社会貢献活動をベトナムで展開する上での基盤づくりを支援しています。

この取り組みに基づき、1月25日、JICA および川崎フロンターレは、ビンズオン省ベトアイン第3小中学校に「川崎フロンターレ算数ドリル」300冊を贈呈し、これを記念して同校で贈呈式が行われました。また、式典に続いて、川崎フロンターレによる「からだを使った算数教室」が行われ、同校の6年生約130名が参加しました。算数教室は26日にも同校の6年生を対象として行われ、両日併せて約250名の児童が参加の予定です。今回を皮切りとし、今後、同ドリルはベトナムの学校、コミュニティスペースなどに幅広く贈呈される予定です。

川崎フロンターレは、「川崎フロンターレ算数ドリル」を川崎市の全小学6年生、および特別支援学校の児童約1万2000人（2022年度実績）に配布し、また「からだを使った算数教室」を実施し、サッカーを切り口に、学びの促進や改善に取り組んでいます。今般は、川崎フロンターレが日本の地元で実践するそれらの社会貢献活動のモデルをベトナムにも展開するものであり、ベトナム語版「川崎フロンターレ算数ドリル」をJICAの協力のもと作成しました。日本のプロサッカーチームが、他言語（ベトナム語）で算数ドリルといった教育コンテンツを作成するのは初めてです。ベトナムでも国民的スポーツであるサッカーを題材とした親しみやすい教材により、算数が苦手な児童の学習意欲増進、学力向上が期待されるほか、ベトナム国内だけでなく、日本国内のベトナム人児童にも本ドリ

---

<sup>1</sup> JICA・Jリーグ共同提案事業：SDGs 及び社会課題に挑むスクール事業の海外展開

ルを提供することで、日本語での学習に難しさを抱える児童の学習サポートに役立ち、50万人を超える在日ベトナム人との多文化共生にも貢献が期待されています<sup>2</sup>。

参加者からは「身体と頭の体操、遊びと学習を組み合わせた新しい体験ができた、クラスのみみんなと一緒に楽しく学べた」などの感想が述べられました。

JICA は、今後も様々なパートナーと共創し、スポーツを通じた地域課題の解決や持続的な経済社会開発に貢献してまいります。

---

お問い合わせ： JICA ベトナム事務所 広報班 関 里緒菜

Tel: (+84-24) 3831 5005（内線 137） E-mail: [Seki-Riona@jica.go.jp](mailto:Seki-Riona@jica.go.jp)

---

<sup>2</sup> 日本在留ベトナム人総計約 52 万人、うち神奈川県に約 3 万 2000 人が在留（2023 年 6 月統計）